

Title	勧誘会話における日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用について
Author(s)	劉, 丹丹
Citation	日本語・日本文化研究. 23 P.106-P.117
Issue Date	2013-12-20
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/26923
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

勧誘会話における日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用について

劉 丹丹

1. はじめに

日本語の「うん」は応答表現であり、あいづちとしてもよく使われ、日常生活において高い頻度で使用されている。中国語の「嗯」と日本語の「うん」は発音が似ているため、中国語を母語とする日本語学習者は「うん」を「嗯」と同じように扱う傾向があることは先行研究（水野 1988）でも指摘されている。しかし、具体的にどのような不適切な使用がされるのかについては言及されていない。

本研究では、日本語の「うん」と中国語の「嗯」を先行する発話との隣接ペアだけで観察するのではなく、具体的な会話の中で一体どのように使われているのか、具体的にどんな類似点と相違点があるのかを考察する。

2. 研究背景

中国語の「嗯」と日本語の「うん」は発音が似ており、機能的にも似ているが、先行研究では以下のような相違点が指摘されている。

(1) **待遇性**：日本語の「うん」には上下関係や親疎関係などによって使い分けられるという待遇性があるが、中国語の「嗯」には待遇性がなく、相手が誰であるかに関わらず使用することができる。（水野 1988、熊 2008、楊 2000）。

(2) **音調と機能**：中国語の「嗯」と日本語の「うん」の発音はよく似ているが、中国語の「嗯」の発音は「ńg」「ńg」「ńg」と、三つの音調があり、『中日大辞典』にも記述されているように、それぞれが異なる機能を持つ。（例 1～5 は、筆者による作例である）

1) 「ńg」の場合は承諾か肯定を表す。

(例 1) A：你去是吧？（あなた行くよね？） B：嗯。（うん。）

2) 「ńg」の場合は疑問を表す。

(例 2) A：他走了？（彼が行った？） B：嗯，他走了吗？（えっ、彼が行ったの？）

3) 「ńg」の場合は意外か不同意を表す。

(例 3) 意外 A：他考上大学了。（彼は大学に合格した。） B：嗯、真的啊？（へー、ほんとう？）

(例 4) 不同意 A：嗯，我不这样认为。（いや、私そうは思いません。）

また辞書には記載されていないが、「ńg」を連続させた「ńgńg」という形で出現する場合は、不同意、反対、拒否感を表す子供っぽい言い方となる。

(例 5) A：嗯嗯，我不去。妈妈去我才去。（ううん、私行かない。ママが行くなら私も行く。）

1) の承諾か肯定を表す「嗯」は日本語の「うん」と同じ用法を持っているが、2) 疑問を表す場合と 3) 意外もしくは不同意を表す場合は、日本語の「うん」は同じように使え

ないだろう。また、中国語の「嗯」は「ǎngǎng」という形で出現するとき、かわいさを示し、甘えているように感じられるため、女性が使うことが多く、男性はあまり使わない。それに対して、不同意や否定として使われる日本語の「うん」は男女を問わず、使われている。

次に、日本語の「うん」については、坊農（2002）は、日本語の「うん」は下降イントネーションを付加する（「うん↓」）ことで、肯定の意味を表し、上昇イントネーションを付加し、「うん？」とすることで疑問を表すことができると指摘している。

また、黄（2002）は、日本語の「うん」は、例6のように、「ぜひ」「もちろん」という気持ちになった文脈では使えるが、中国語の「嗯」は例7のように、「いったん間を置いて、話し手の中で情報調整をおこなっている」ことを表す表現であるという。音声的には日本語の「うん」と似ているが、この点ではやはり異なると述べている。

（例6）

甲：誰か中国語の通訳ができる人を紹介してくれない？ 乙：（「考えるまでもなく当然だ」という様子で） うん、もちろんいいですよ。	（黄 2002）
-----------------------------------------------------------------------	----------

（例7）

甲：他一个人好像搬不动,咱们去帮帮他吧。 彼、一人で運べないようですね、ちょっと手伝ってあげようか。 乙：（「そうですね」という様子で） 嗯, 好吧。 ええ、そうしましょう。	（黄 2002）
-----------------------------------------------------------------------------------------------------	----------

例6の日本語の「うん」は、すぐに承諾しているのに対し、例7の中国語の乙は、「嗯」と言うことで、少し考えてから、「好吧」と同意をしている。しかし、実際には、中国語の「嗯」は例6の日本語の「うん」と同じように使えるのではないかと思われる。

例えば、（例8）A：你今天去学校啊？（あなた今日学校に行く？） B：嗯, 去。（うん、行く。）この「嗯」は一瞬吟味するのではなく、Aの質問に対して肯定応答して、さらに「去」で強調していると考えられる。

また、日本語の「うん」について、定延（2002）は、相手が話そうとする内容に見当がついたり、激しく同意したりする場合には、あいづちの「うん」の出現ペースが速くなる（例9）一方、発話を受ける人間の事情によっては、相手の発話をもっと展開させるのではなく、早くやめさせたい場合もあり、このときはあいづちの「うん」が多用されやすくなる（例10）と指摘している。

（例9）

X: あの2次会だって、田中の仕切が悪いわけでしょ。 Y: うん。 うん うん うん うん	定延(2002)
--------------------------------------------------------------------	----------

（例10）

X: その場合はまた改めてこちらから電話しましょうか。

Y: うん うん うん うん うん うん うん 定延(2002)

中国語の「嗯」は、日本語の「うん」と同じように、繰り返し使うことで、相手の発話に対する理解や同意を表すことができるが、繰り返す形で相手の話を早く終わらせたいことがあまり見られない。そういう場合は、中国語では「行行行, 知道了」(オッケオッケオッケ、分かった)「好好好, 就这样」(オッケオッケオッケ、そうしよう)などを使って、会話を終わらせるだろう。また、定延(2002)では言及されていないが、日本語では、例10のような相手との話を早く切り上げたい場合に「うん」を繰り返すことは、親しい関係、あるいは目下に対してのみに制限される。

3. 調査方法と分析の枠組み

本研究でデータの収集にはロールプレイを用いる。中国語母語話者20人(中国北方出身、大学生)、日本語母語話者20人(関西出身、大学生)に2人一組でロールプレイを依頼し、会話はすべてICレコーダーで録音した。日本語の「うん」と中国語の「嗯」を具体的な談話の中で分析するために、談話構造の研究が進んでいる勧誘を選び、ロールカードを、親しい関係で「相手を焼肉に誘う」、「誘われる側(被勧誘者)は焼き肉にあまり興味がない」というように設定した。

分析手順としては、まず録音したデータを文字化し(文字化のルールは筒井(2012)を参考とした)、次に調査会話を、筒井(2002)、鈴木(2003)、大上他(2011)を参考し、<勧誘の導入部>、<勧誘部>、<勧誘の相談部>、<勧誘の終結部>の4つの談話構造に分ける。最後に、会話に現れた日本語の「うん」と中国語の「嗯」を発話分類とともに、その発話機能について分析し、日本語の「うん」と中国語の「嗯」の相違点と類似点を考察する。本研究では、「ん」「ふん」などのバリエーションを「うん」として扱うが、「うーん」、「ううん」を「うん」と区別して取り入れる。

発話は会話の中での機能によって、「談話標識」、「あいづち」、「実質発話」等に分類されている。今回の調査資料中の日本語の「うん」と中国語の「嗯」は「あいづち」、「フィラー」、「実質発話」としての用法が多くみられたため、発話の「あいづち」、「フィラー」、「実質発話」の3つの分類に注目し、「あいづち」と「フィラー」を中心に分析する。

本稿では、「あいづち」「フィラー」「実質発話」の3つの用語を先行研究を参考にして、以下のように定義する。

あいづち: 会話参加者の一方(A)が発話権を行使している間に、あるいは発話権の終了直後に、他の参加者(B)が(A)から送られた情報を共有したことを伝える表現及びこれらの表現への反応として送られる表現(大浜2006、堀口1997、楊2006を参考)

(例11) 1A: お店もきれいらしくて 2B: うん
 3A: うん、なんかエビとか貝とか置いてるらしいの (会話データより)

フィルター： 発話権を持つ話し手が発する実質的意味を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たず、発話の一部分を埋めるだけの語。 (崔 2012 : 8)

(例 12) A : でなんか行ってみたいなあと思って、うん、どうかなと思ったんだけど
(会話データより)

大浜 (2006) では、例 12 のような「うん」を「一人あいづち」と呼んでいるが、本研究ではフィルターとして扱う。

実質発話： なんらかの実質的な内容を表現する言語形式 (単なる繰り返し以外の名詞、動詞など) を含んで、判断、説明、質問、回答など、実質の叙述や聞き手への働きかけをする発話 (杉戸 1989 : 50)

(例 13) A : 行く? B : うん。 (作例)

4. 分析結果と考察

今回の調査結果により、日本語の「うん」と中国語の「嗯」は類似点があるものの、相違点もあることが明らかになった。本項では、日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用を発話分類ごとに、表現形式、機能について分析する。

4.1 日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用状況について

本研究の会話データに現れた日本語の「うん」と中国語の「嗯」は、両言語ともに「あいづち」「フィルター」「実質発話」として使用されており、「あいづち」としての使用が一番多い。しかし、中国語の「嗯」では三つの用法の使用数にはそれほど差がなかったものの、日本語の「うん」はあいづちとして使われたものが 73.2% (156 回) と、圧倒的に多い。それぞれの使用度合の割合を表すと次の表 1 のようになる。

表 1 日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用状況

言語 分類	日本語の「うん」	中国語の「嗯」
あいづち	73.2% (156)	40.6% (13)
フィルター	8.9% (19)	31.2% (10)
実質発話	17.8% (38)	28.1% (9)
総計	100.0% (213)	100.0% (32)

4.2 あいづちとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」について

表 1 によると、日本語の「うん」は 73.2% で 156 回、中国語の「嗯」は 40.6% で 13 回と、両方とも「あいづち」として一番よく使われているが、大きな差がある。本項では、あい

づちとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」を表現形式と機能の面から分析していきたい。

(1) あいづちとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」の表現形式について

本調査では、あいづちとして使われた中国語の「嗯」は、常に単独で使われていた。それに対して、日本語の「うん」は、単独の使用も見られたが、興味や関心を示す「うんうん」「うんうんうん」のように複数回繰り返して「うん」を使用する例も多く見られた。

(例14) <中国語・⑩> (半括弧[]は重複の始めを表す)

<勧誘の導入部>	
1A: 小杨【呼びかけ】 (楊さん)	2B: 嗯【実質発話: 応答】 (うん)
<勧誘部>	
3A: 咱们去吃烤肉呗【勧誘】 (私たち一緒に焼き肉を食べに行こうか)	4B: 吃烤肉啊【確認要求】 (焼き肉か)
5A: 啊【実質発話: 確認】 (うん)	6B: 以前我吃的烤肉老贵, 都90块以上【理由説明】 (以前食べたのはとても高くて、90元以上かかったよ)
…… (中略)	
13A: 五分之一价钱, 打两折, 多便宜, [是不? 【情報提供】 【同意要求】 (五分の一の値段で、八割引、とても安いよね、[違う?]	
14B:	[嗯 【あいづち: 同意】 (うん)

勧誘者Aは被勧誘者を説得するために、13Aで情報提供をしている。13Aの「五分之一价钱, 打两折, 多便宜」は、勧誘者Aは「値段が安い」という情報提供をし、被勧誘者Bに同意を求めている。14Bの「嗯」は13Aの「五分之一价钱, 打两折, 多便宜」の【情報提供】の後に、Aの発話の途中で発話されたもので、「是不」という【同意要求】に対しての「実質発話」の応答ではなく、同意を表す「あいづち」だと考えられる。

例14のように、中国語の「嗯」は単独でしか使用されなかったが、日本語の方は、興味や関心を示す複数の「うん」の使用がよく見られた。

(例15) <日本語・⑦>

<勧誘部>	
9A: 行けるやろう	【勧誘】
10B: えー	【あいづち: 感情の表出】
11A: ケーキもあるし	【情報提供】
12B: うん	【あいづち: 聞いている・理解】
13A: なんか魚介類と	【情報提供】

14B: うんうんうん	【あいづち：聞いている・理解】
15A: え、なんかめっちゃいいらしくて	【情報提供】
16B: うんうん	【あいづち：聞いている・理解】
17A: お店きれいで	【情報提供】
18B: うん	【あいづち：聞いている・理解】
19A: そう	【あいづち：同意】
20B: あ、そうなん	【あいづち：理解】
…… (中略)	
28B: えっ、明日とかでもいい？返事	【保留】
30A: うん、いいよ	【実質発話：受け入れ】
31B: あ、じゃ、明日までにメールするわ	【約束】
32A: オッケー	【受け入れ】

10B で被勧誘者 B は「えー」と勧誘者 A の勧誘に対して返事を保留していることが分かる。11A～17A まで勧誘者が積極的に情報提供をし、被勧誘者を説得しようとしている。被勧誘者 B は勧誘者 A からの焼肉に関する情報提供に対し、興味や関心を持つことを示す複数の「うん」を使ってあいづちを打っている。しかし、最後の 28B の「えっ、明日とかでもいい？返事」という発話を見ると興味深く聞いているが、行くかどうかは別であることが分かる。日本語では、被勧誘者が勧誘内容にあまり興味がなくても、積極的にあいづちを打つことで、相手へ配慮を示している。

また、例 16 のように、被勧誘者 B が自分のあまり愉快ではなかった経験、いわゆる自分が焼肉に行きたくない理由について語っている間に、勧誘者 A による複数の「うん」の使用も見られた。

(例 16) <日本語・①>

15B: 私 3000 円ぐらいで	【理由説明】
16A: うんうんうん	【あいづち：聞いている・理解】
17B: 行ったことあるけど	【理由説明】
18A: うん	【あいづち：聞いている・理解】
19B: でも、あんまりなんか味もすごいいいわけじゃなくて	【理由説明】
20A: うんうんうん	【あいづち：聞いている・理解】
21B: お店の人の態度とかもそんなによくない感じがして	【理由説明】
22A: あ そうなんや	【理解】

ここでは、勧誘者 A は被勧誘者 B が行きたくないことを知りながら、B の理由説明に対して頻りに複数の「うん」というあいづちを打ち、A は「聞いているよ、あなたの気持ちが分かる、続けて」という自分の気持ちを積極的に B に伝えている。

それに対して、中国語のデータでは、例 17 のように、被勧誘者 B が自分のあまりよく

ない経験について話しているとき、勧誘者Aは日本語の勧誘者のように頻繁にあいづちを打って興味を示すのではなく、自分が聞いた店は絶対にいいと【実質発話】で、被勧誘者Bを説得しようとしている。

(例17) <中国語・⑨>

8B: 哎呀, 别说烤肉了。我去过好几次自助烤肉了。哎呀, 好差劲啦。	【理由説明】
(もう、焼肉の話はやめて。私何度も食べ放題の焼肉に行ったことあるけど。もう、最悪だよ。)	
9A: 我跟你说那地方我听说了。那特别好, 那个种类特别多, 而且特别干净, 味道也好。	
(聞いて、あそこのことは私聞いたことあるんだけどね。あの店はとってもいい、えっと、種類がとっても多くて、しかもとっても衛生的で、味もいい。)	
10B: 那服务态度, 上次我去的, 哎呀。	【理由説明】
(じゃ接客態度は、この前私行ったのは、もう)	
11A: 要是服务态度不好, 我能带你去吗!	【拒否】
(態度がよくなかったら、私があなたを連れて行くはずがない)	

上述した日中両言語の例には、先行研究で述べた中国語の会話の「対話」スタイルと日本語の会話の「共話」スタイルの違いが観察される。日本語の方は、「話し手の意見や、事実との関係を重視するよりは、話し手や聞き手の感情や、人間関係に対してより敏感な構造を持っている」(水谷修 1983: 13)、会話をする際、「自分を相手に同調させ、相手の気持ちになることが大切である」(鈴木 1985: 65)。一方、中国語の方は、情報の提供、獲得を重視し、相手の賛同や同感を特に期待せず、自分の意思や意見を相手に理解させようとしている(劉 2012)。

従って、日本語の「うん」と中国語の「嗯」は会話の中での出現位置や果たす機能が違うことが考えられる。次に、日本語の「うん」と中国語の「嗯」の機能について詳しく見ていきたい。

(2) あいづちとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」の機能について

本研究では、あいづちの機能を堀口(1997)を参考にして、「聞いている・理解しているという信号」「同意の信号」「否定の信号」「感情の表出」の4種類に分ける。

今回の調査資料より、あいづちとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」は、ともに「聞いている・理解しているという信号」「同意の信号」という機能で使用されているが、中国語の「嗯」は「同意の信号」という機能が全体の76.9%で、一番多く使われており、日本語の「うん」は「聞いている・理解しているという信号」として使われるのが一番多かった。

表2 あいづちとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用状況

機能	聞いている・理解し	同意の信号	否定の信号	総計
----	-----------	-------	-------	----

言語	ているという信号			
日本語の「うん」	72.9% (113)	25.8% (40)	1.3% (2)	100.0% (155)
中国語の「嗯」	23.1% (3)	76.9% (10)	0.0% (0)	100.0% (13)

今回のデータでは中国語の「嗯」が「否定の信号」のあいづちとして使用される例は見られなかった。実際には日本語の「うーん」(例 18)のように、「どうかな、分からないな」という否定の信号を表すことができる。例えば、例 19 のような会話は日常的に聞かれるものである。

(例 18) <日本語・①>

20B: お店の人の態度なんかもそんなによくない感じがして
 21A: あ、そうなんや
 22B: だから[安すぎる
 23A: [でもなんかそこのお店すごく雰囲気よくて
 24B: うーん
 25A: なんかすごいあのう接客もいいらしいのね
 26B: あ、そうなんだ。

(例 19) (A が学校周辺にできた新しい料理店に B を誘っている)

1A: 听说炒菜很好吃
 (炒め物がとてもおいしいらしい)
 2B: 嗯—
 (うーん)
 3A: 去不?
 (行かない?)
 4B: 让我想想, 要不改天再去?
 (考えさせて、また別の日に行ったら?)
 5A: 啊, 你就和我去呗。
 (えー、私と一緒にいこうよ。)

また、日本語の「うん」と中国語の「嗯」同じように、会話を終了させることができる。

(例 20) <日本語・①>

48B: じゃ、[授業のあと、5時に
 49A: [うん、また はい、うん
 50B: 分りました
 51A: うん

(例 21) <中国語・⑥>

10B: 反正之前去的都不太好. 去这个再去看看吧
 (以前行ったのはどれもあまり良くなかったが、その店に行ってみようか)
 11A: 行
 (オッケー)
 12B: 嗯
 (うん)
 13A: 嗯
 (うん)

日本語の会話では、相手との共感を重視し、話し手は聞き手のあいづちなどの反応を期

待し、また、聞き手は常に「聞いている」や「理解している」ということを話し手に伝えたりして、話し手と聞き手が協力しながら会話を進めていく。そのため、「聞いている・理解しているという信号」という機能での使用が最も多く、同意しているわけではなくても、「うん」が多用されていると考えられる。

今回の資料からみると、中国語の「嗯」はあいづちとして使われる際、「同意の信号」という機能が圧倒的に多く使用されているため、中国語を母語とする日本語学習者が日本語母語話者と会話する際、日本語母語話者が頻繁に「うん」や「うんうんうん」を使って、積極的に「聞いている、理解しているよ、話を続けてください」ことを伝える姿を見て、自分の発話に「同意している」と誤解してしまう可能性があり、コミュニケーションに摩擦が生じることが少なくないと考えられる。また逆に、日本語母語話者からは、情報のやりとりを重視する学習者が、協力的ではなく押しつけがましいと思われるのではないだろうか。

4.3 フィラーとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」について

今回の調査資料より、日本語の「うん」と中国語の「嗯」は、あいづちで一番よく使われているが、日本語の「うん」は8.9%で19回、中国語の「嗯」は31.2%で10回、フィラーとしての使用も見られた。

表3 フィラーとして使われる日本語の「うん」と中国語の「嗯」の出現

	発話の冒頭	発話の途中	発話の末尾	総計
日本語の「うん」	6	9	4	19
中国語の「嗯」	9	1	0	10

表3で示したように、日本語の「うん」と中国語の「嗯」は、ともに、フィラーとして使われているが、中国語の「嗯」は発話の冒頭に一番よく使われているのに対して、日本語の方はそれほど差がなかった。また、フィラーとして使用される際、日本語の「うん」より中国語の「嗯」の方が、個人差が大きい。(日本語10組中8組にフィラー「うん」の使用が見られ、中国語の方は10組中4組しかフィラー「嗯」の使用が見られなかった。)

a. 発話の冒頭に現れる日本語の「うん」と中国語の「嗯」

(例22) <日本語・⑥>

17A: えっ、でもなんか牛肉よりさあ、なんかいいとか言わへん? 体に
 18B: うん、まあ、おいしかったら行くけどな。そうやな、焼き肉か、お肉食べたいけどな
 19A: えっ、じゃ行こうやん
 20B: うん、考えとくわ。

(例23) <中国語・⑥>

1A: 哎, 思雨, 那个我今天听 C 说有个自助烤肉店不错, 【呼びかけ】 【情報提供】

(ね、思雨、あのう、今日Cからからいい焼肉のお店あるって聞いた、)	
正好周五晚上没课, 咱俩一块去吧。	【情報提供】 【勧誘】
(ちょうど金曜の夜授業ないし、私たち一緒に行こうか。)	
2B: 嗯... , 在哪啊?	【情報要求】
(うーん、どこなの?)	
3A: 嗯... , 这个, 应该不太远吧。这个烤肉店不错, 服务态度也挺好的, 挺干净的。	【情報提供】
(うーん、それは、あまり遠くないでしょ。この焼き肉店は接客態度いいし、衛生的で、いいらしい。)	

日本語の 18B、20B と中国語の 2B に現れる「うーん」と「嗯」は、両方とも、前発話の情報要求に対する「実質発話」の応答に現れているので、不同意を表す「あいづち」ではなく、同意できない時に使われているフィラーである。同意できないが、率直に否定するのではなく、フィラーを使うことで、どう対応するのかを考える時間を稼いでいる。また、中国語の 3A の「嗯」はただの質問に対する応答における考えていることを表すフィラーである。

今回のデータによると、発話の冒頭に現れる日本語の「うん」と中国語の「嗯」は全て考える時間を稼ぐための「うーん」と「嗯」の言語形式である。ロールプレイのため、発話するには考える時間が必要だったのか、さらにデータを収集し、検証する必要がある。

b. 発話の途中に現れる日本語の「うん」と中国語の「嗯」

(例 24) <日本語・①>

23B: 有名なの?	【確認要求】
24A: うん	【実質発話: 確認】
25B: hhh	
26A: でなんか行ってみたいなと思って、 <u>うん</u> 。どうかなと思ったんだけど	【勧誘】

26A の自己発話に現れた「うん」は、直前の「行ってみたいなと思って」という発話に対する納得を表すと同時に、次に発する発話を考える時間も稼いでいる。例 28 では省略されているが、この段階の前に、勧誘者 A は既に被勧誘者 B の不愉快な経験を聞き、被勧誘者があまり行きたがっていないと予測できたため、26A で相手の気持ちに配慮しながら婉曲に勧誘を行っていることが分かる。

(例 25) <中国語・③>

28B: 那我用交钱吗?	
(じゃ私お金を払うの?)	
29A: 你啊? 如果我给你说说情, 没准不用交钱。hhh	
(あなたが? 私から話をすれば、お金払わなくてもすむかも)	
30B: hhh 啊, 那还行, 嗯。那就周六呗	
(あ、ならいいけど、 <u>うん</u> 。じゃ土曜にね)	

30B の「嗯」は自分の「啊, 那还行」という評価の発話に対して使われ、山根 (2002)

が「納得したり理解したりしたときに自分めあてに打つもの」(pp. 51)と説明するように、自分への納得を表している。

c.発話の末尾に現れる日本語の「うん」

(例26) <日本語・⑤>

38B: でもさ、大阪やな?	39A: うんうん、大阪と思う。うんうん。
----------------	-----------------------

この「うんうん」は、勧誘者A自身の発話への肯定を表すとともに、田窪・金水(1997)が「こちらの出力が終わったので、そちらで処理に移りたい」という信号で論じているように、「言いたいことが終わったよ」と相手に発話権を譲ることも表している。

今回のデータでは、フィルターの中国語の「嗯」は、発話の末尾には見られなかった。そもそも日中のフィルターの機能が違うのか、今回のデータ収集方法による現象か、今後検証する必要がある。

5. 終わりに

今回の調査では、日本語の「うん」と中国語の「嗯」は同じように、「あいづち」「フィルター」「実質発話」として扱われているが、「あいづち」「フィルター」として使用される際に、機能や出現位置に大きな違いが見られた。中国語母語話者である日本語学習者は、日本語の「うん」を適切に使うために、まず、日本語の「共話」の会話スタイルと中国語の「対話」スタイルを理解する必要があり、次に、日本語の「うん」と中国語の「嗯」の相違点を知る必要がある。特に、日本人とのコミュニケーションでは、あいづちとして使われる「うん」を単独に見るだけでなく、「うん」が出現する前後の発話やフィルターなどを含めて、会話の全体から相手の考え方を判断する能力を身につけなければならない。

今回は、交渉会話の勧誘会話の中で、日本語の「うん」と中国語の「嗯」について分析したが、今後は勧誘以外の交渉的会話や雑談においての日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用について考察し、日本語の「うん」と中国語の「嗯」の使用の相違点を検証する必要がある。

【参考文献】

大上協子・スクリパエンコアレクセイ・ソムチャナキックナツジ・田中真衣・ユパワン

ソーピットウッティウォン・劉丹丹(2011)「「勧誘」に関する一考察 一日・中・

タイ・露対照研究一」『阪大日本語教育学研究』第2号 pp.1-40

大浜るい子(2006)『日本語会話におけるターン交替と相づちに関する研究』溪水社

熊紅芝(2008)「日本語と中国語のあいづち表現形式についての比較—待遇性の観点からの一考察—」『中言語研究と日本語教育』創刊号 pp.55-66

黄麗華(2002)「中国語の肯定応答表現—日本語と比較しながら」『「うん」と「そう」の言語学』 pp.47-60

- 定延利之 (2002) 「うん」と「そう」に意味はあるか 『「うん」と「そう」の言語学』 ひつじ書房 pp.75-112
- 杉戸清樹 (1989) 「ことばのあいづちと身振りのあいづち—談話行動における非言語的表現」 『日本語教育』 67, pp.48-59
- 鈴木睦 (2003) 「コミュニケーションからみた勧誘のしくみ —日本語教育の観点から—」 『社会言語科学』6 卷 1 号 pp.112-121
- 崔維卿 「日韓両言語における「あいづち」と「フィラー」の機能分析—「はい」と「네 (Ne)」をめぐって—」 『比較社会文化研究』 32, pp.7-18
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」 『文法と音声』 くろしお出版
- 筒井佐代 (2012) 『雑談の構造分析』 くろしお出版
- 筒井佐代 (2002) 「会話の構造分析と会話教育」 『日本語・日本文化研究』12. 大阪外国語大学日本語講座 pp.9-21
- 坊農真弓 (2002) 「プロソディからみた「うん」と「そう」」 『「うん」と「そう」の言語学』 pp.113-126
- 堀口純子 (1997) 『日本語教育と会話分析』 くろしお出版
- 水野義道 (1988) 「中国語のあいづち」 『日本語学』 7 卷 13 号, 明治書院 pp.18-23
- 水谷修 (1983) 『話し言葉の表現』 講座日本語の表現 3, 筑摩書房
- 劉丹丹 (2012) 「勧誘会話における中日のあいづち対照研究」 大阪大学修士論文
- 山口順子 (1999) 「日本語の談話における話し手の発話と聞き手の発話の関係—あいづちから応答へ—」 大阪大学修士論文
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』 くろしお出版
- 楊晶 (2000) 「中国語会話における聞き手の言語行動について—ラジオの電話相談番組の場合—」 『新島学園女子短期大学紀要』 19 号 pp.1-16
- 楊晶 (2006) 「中国語会話における相づちの使用についての研究 —発話権交替の観点から—」 『桜美林言語教育論叢』 第 2 号 pp.61-72
- ザトラウスキー・ポリー (1993) 『日本語の談話の構造分析 —勧誘のストラテジーの考察—』 くろしお出版